

アイヌ学習を通して文化・自然との共生を学ぶ

江別市立対雁小学校

校長 佐藤 秀人

I 活動の趣旨

本校では、アイヌ学習を総合的な学習の時間のテーマの一つに位置付けて3年生と5年生が学習をしている。6年生はその総仕上げとして修学旅行で「ポロとコタン」を訪問見学している。アイヌ学習を通じて、先住民族であるアイヌの人々の自然観・自然との共生・文化や歴史を学ぶ。

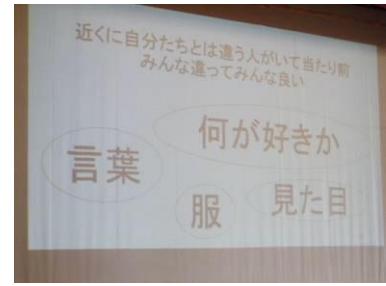
II 活動・全体計画

以下の図は、3年・5年の総合的な学習の時間の全体計画である。体験や児童個々の探究活動のテーマについては、その時の児童の興味関心や実態に応じて外部講師である「北海道アイヌ協会」の方との打ち合わせできめていくことになる。

3年総合的な学習の時間「ともに生きよう」	
オリ	◎アイヌが北海道に先住してきたこと、その文化の中に根付いた自然との関わり方について学ぶことを知る。
体験	◎アイヌがどのように自然とともに生きてきたか話を聞く。また、可能な内容で踊りや遊びの体験をする。 ・5年生の内容と重ならない体験になるように選択する。
探求	◎「木を使った遊び」「人とのつながり」「地球での役割」の中で興味を持ったことを調べる。
探求	◎「木を使った遊び」「人とのつながり」「地球での役割」の中で興味を持ったことを調べたことを新聞にまとめる。
5年総合的な学習の時間「アイヌ文化と歴史を学ぶ」	
オリ	自分たちが住んでいる北海道の先住民族であるアイヌの人々について文化や歴史を知り、理解を深める。
体験	サケについて学ぼう アイヌの人たちとサケ サケの解体 サケ料理
探求	アイヌ民族の文化について調べよう ①アイヌ語の地名 ②衣服 ③食べ物 ④住まい ⑤歌と踊り
探求	アイヌの歴史を調べよう ①縄文文化からアイヌ文化へ など
体験	アイヌ文化を体験しよう アイヌ文様コースター作り など

以下に主な活動を取り上げる。

1. アイヌの自然との共生（3年生）



3年生にとっては初めての「アイヌ」との出会いである子どもも多いことから、まずは「アイヌ」に関する体験を重視している。アイヌの「衣服」「言葉」「道具」「食べ物」「踊り」など基本的な事柄について直接触れたり・聞いたりすることを重点に活動を組織している。このときは、アイヌ模様の衣服・木を加工する道具・食べ物・歌と踊りを体験した。

2. 「木を使った遊び」（3年生）

石狩振興局森林室の方々をお願いして樹木の学習を組織している。葉っぱの形・木肌の違い・種の形のちがいや発芽するための戦略などを学んでいる。



学習の後は、風で遠くへ飛ぶ種子のつくりを学び「遠くへ飛ぶ種のおもちや」を作り、遊びを行った。

3. サケについて学ぼう（5年生）



千歳アイヌ協会の方に講師をお願いし、5年生が「サケについて学ぶ」体験学習を行っている。身近な魚である「サケ」について、生態・北海道とサケ・アイヌとサケなどを学習しながらサケの解体を実習した。その後石狩鍋に調理しおいしくいただいた。

IV 成果と課題

アイヌについての「体験」を通しアイヌの文化や民族の違いについて学習している。とても興味をもってその後の探究活動につながる取組になっている。